

兵庫県公立高校通学区の拡大計画の凍結を求める請願書

兵庫県教育委員会は、県下41市町のうち24の市町が反対または慎重にとの意見表明をしたにもかかわらず、2012年1月6日に現在の公立高校普通科通学区を2015年度より現行の16学区から5学区に改編するとの「基本方針」を決定しました。そして、「実施に向け必要となる制度設計等」について2012年12月20日に「改善」を決定しました。しかし、「改善」の内容は、以下の通り「基本方針」を大きく逸脱し、受験生本人はもちろんのこと、保護者・中学校関係者など受験に関係するすべての人々に次のような大きな混乱をもたらすものとなっています。

1. 「複数志願選抜」で行われていた「その他校希望」を「基本方針」では「通学距離や時間を考慮したその他校希望制度となるよう、その在り方を見直す」と明記していたにもかかわらず「改善」では「その他校希望」制度を突然に廃止にしました。これは県教委が言っていた「セーフティネット」を一方的になくすものであり、中学生を不安にさせるものです。
2. 但馬地域の「連携校方式」で、連携校以外からの合格者割合を現行の「北但6%以内、南但5%以内」から「18%以内」へと一気に拡大しました。但馬の現状からいうと、「連携校方式」を形骸化させるものです。
3. 単独で入学者選抜を行っている「総合学科高校」「単位制普通科高校」は、普通科高校通学区検討会の検討の対象外であり、「基本方針」の中でもまったく触れられていませんでした。それを今回の「改善」の中で普通科高校と同じ複数志願制度に組み入れるとしています。これは、単位制や総合学科を志望する生徒だけでなく普通科を志望する生徒をも混乱に陥れるものです。
4. 「第一志望校加算点」や「通学費等、通学支援の在り方」について「2013年度内に公表する」としていますが、これでは「学区拡大初年度の受験生が入試制度の詳細を知るのは受験の1年前」ということとなります。受験生にとっては遅すぎます。また、どのような方向で検討するのか、まったく明らかにされていません。

このままでは、中学生・保護者・教職員にとって、どのような入試制度になるのか直前まで分からず、中学校生活3年間をかけての高校進学への準備が不可能です。このような中学生を犠牲にし、教育現場を混乱に陥れるような通学区拡大方針はいったん凍結し、幅広く県民の意見を聞き再検討すべきです。そのために県議会に対し、次のことを請願します。

【請願事項】

2015年度入試から実施しようとしている兵庫県公立高校通学区の拡大計画をいったん凍結してください。

氏 名	住 所

取り扱い団体
連 絡 先

高校通学区拡大反対連絡協議会
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目2-10 兵庫高教組気付
TEL 078-341-6745 FAX 078-351-3185